

## 2022 年度アジア生協協力基金一般公募助成事業

### 中間報告書 兼 最終報告書

団体名	特定非営利活動法人 アジアクラフトリンク
申請事業名	ミャンマー・バゴー市の木工産業振興のための人材育成とグループ化支援事業
事業の担当者名	大場 寛之
助成金額	800,000 円
事業の概要	ミャンマー・バゴー市の木工品生産者が公式木材や植林木を新たに活用できるような調達の仕事みづくりと技術の向上を実施することで、木工産業の収益性を向上させ、さらに現地の産業関係者の人材育成と組織化を促進することで、木工産業の収益を高める取り組みが、自立的かつ持続的に行われるよう支援する。

#### 【ご記入前の注意】

- ・ 本報告書は 2022 年 9 月提出の中間報告書および 2023 年 3 月提出の最終報告書の両方を兼ねています。最終報告書は中間報告書に追記する形で記入しご提出ください。
- ・ 中間報告書としての提出期限は「**9月30日**」、最終報告書としての提出期限は「**3月31日**」です。
- ・ 中間報告書では「1. 4月～8月に実施した事業内容について」「2. 中間報告書提出時点での事業の振り返り」までを記入し、最終報告書ではすべての事項について記入するようにしてください。
- ・ 記入欄等は自由に拡張頂いて構いません。
- ・ 記入頂いた内容は運営委員会の報告以外に、アジア生協協力基金活動報告書『アジアに架ける虹の橋』、生協総研 HP に掲載され、アジア生協協力基金の広報に活用させて頂く場合があります。

## 1. 4月～8月に実施した事業内容について

※実施した事業の内容、参加者等について簡潔に記述下さい。

※9月の内容を記入される場合は、「3. 9月～翌年2月に実施した事業内容について」に記入ください。

4月
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本事業開始に伴い、4月2日、当会の現地スタッフ（活動担当2名、会計担当1名）と日本事務局で、キックオフミーティングをオンラインで実施した。活動の目的、全体スケジュール、月次での会計管理方法などの周知と確認を実施した。</li><li>・ 担当業務ごとに個別の打合せを実施し、活動については、事業サマリーの日・英・現地語版を準備、会計については、現地会計簿を準備した。</li><li>・ 公式木材や植林材の調達先の情報収集と交渉を実施し、4月には、マレーカリンの公式木材を購入・運搬した。</li></ul>
5月
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公式木材や植林材の調達先の情報収集と交渉を継続した。有力な情報が得られた際には、活動担当2名が訪問し、木材の状態を事前確認した。5月には、ユーカリの公式木材を購入・運搬した。</li><li>・ 4月に購入したマレーカリン材を用いて、木材乾燥試験と生産者への分配、生産試験を実施した。生産された木工品はアジアモダンクラフトに持ち込まれ、同社スタッフが品質確認を行なった。</li><li>・ 木材乾燥試験を実施するための木材乾燥設備の組立は、本事業開始後に着手する計画であったが、現地では社会経済的な混乱によって急激な資材高騰が続いていたため、本事業開始に先行して他資金により資材調達し製作する対応をとった。</li></ul>
6月
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 6月1日、木材乾燥設備にボイラーを追加接続することでスチーム乾燥に対応できるよう改良し、木材乾燥試験を継続した。初期には木材にカビが生える結果も見られたが、温度、湿度、処理時間等のパラメータを調整しながら試験を継続し、改善している。</li><li>・ 6月7日、当会、アジアモダンクラフト、地域の木工品生産者（以下、三者）の交流を促進できるよう、当会が実施する植林活動に参加を呼びかけたところ、アジアモダンクラフトから12名、地域の木工品生産者から32名の参加が得られた。共同作業を通じて参加者間の交流を深めたとともに、本事業で利用促進中のユーカリやアカシアなどを植林することで、当該樹種への関心を高める機会となった。</li><li>・ 6月13日、三者ミーティングを実施した。初回のため、生産活動の課題に関する情報交換や、木工技術に関する情報提供をしながら、お互いの理解を深める機会として設定した。ミーティングの中で木工品生産者らが、日本向けの新しい商品のデザイン開発をしたいとの意欲が挙げられたため、参加メンバーを対象に、試験的なデザインコンテストを共同活動の第一歩として実施した。</li></ul>
7月
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公式木材や植林材の調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。7月には、マレーカリン、ユーカリの植林材を購入・運搬し、木材乾燥試験と生産者への分配、アジアモダンクラフトによる品質確認を実施した。</li></ul>
8月

- ・ 公式木材や植林材の調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。8月には、マレーカリンの植林材を購入・運搬し、木材乾燥試験と生産者への分配、アジアモダンクラフトによる品質確認を実施した。

## 2. 中間報告書提出時点での事業の振り返り

達成された成果
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当会による公式木材や植林材の調達を実施され、一部の生産工房で、それらの材を用いた木工品生産を開始することができた。木材乾燥試験は、スチーム乾燥という新たな方法を導入しながら開始することができた。</li><li>・ 本事業で計画していたミーティングと合わせて、植林活動やデザインコンテストなどの活動も機会として活用しながら、木工品生産者らとの協力関係づくりを開始することができた。</li><li>・ 事業後半も、事業計画時に設定した「期待される効果」の達成に向けて、活動を継続する。</li></ul>
現時点で明らかとなった課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業国では 2021 年 2 月以降続く社会的な混乱によって、電力の不足、燃料の高騰、物流の混乱に資材不足などの困難が続いている。生産者の生産活動にも、通常時と異なる支援が必要になる場合もあるため、注意深く情報交換しながら、現地の生産者コミュニティに必要な支援方法を選択していく必要がある。</li><li>・ 政府当局による市民活動への取り締まりが厳しい中、集会の際は、極めて大人数での会合は控え複数回に分割する、事前に目的や内容を行政へ連絡するなど、十分な配慮を行いながら実施する必要がある。なお、別事業において 2022 年 3 月に集合型研修を実施した際は、上記の対応により問題なく活動を完了することができた。</li><li>・ 上記 5 月の実施内容欄に報告の通り、木材乾燥設備の組立を他資金により実施することとしたため、本事業の助成金活用額として乾燥機制作費資材費 195,000 円を計上していたが、同金額は事業後半に他費目へ活用したく、中間報告書提出後に相談したい。</li></ul>

### 3. 9月～翌年2月に実施した事業内容について

※実施した事業の内容、参加者等について簡潔に記述下さい。

9月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。9月には、ユーカリ、マレーカリンの植林材を購入・運搬し、木材乾燥試験と生産者への分配、アジアモダンクラフト（AMC）による品質確認を実施した。</li> <li>・ 本事業の中間報告書を提出した。</li> </ul>
10月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。10月には、ユーカリ、マレーカリンの植林材を購入・運搬し、木材乾燥試験と生産者への分配、AMCによる品質確認を実施した。</li> <li>・ ミャンマーで植林事業を実施する国際緑化推進センターへ、同センターが支援するコミュニティフォレストからの植林材調達を相談した。</li> <li>・ 10月21日および30日、ビジネスマネジメント研修の講師候補と研修計画についてミーティングを実施した。11月から、基礎ビジネススキル（効率的な協働、情報共有など）をテーマに、月1回、1日の研修を継続的に実施することとなった。ただし本事業期間2023年2月までは、当会スタッフおよびカウンターパートAMCスタッフを対象に試験実施し、その結果から内容検討のうえ、同3月以降に本編研修を開始する計画とした。</li> <li>・ 本基金事務局へ相談し、主に乾燥機制作費資材費における減額分を、植林木購入、木工品最終加工用資材購入等として支出するための予算変更を実施した。</li> </ul>
11月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。11月には、ユーカリの植林材を購入・運搬し、木材乾燥試験と生産者への分配、AMCによる品質確認を実施した。</li> <li>・ 11月2日、ビジネスマネジメント研修を実施した。6名が参加した。</li> <li>・ 11月5日から7日、バゴー市内で開催された中小・零細事業者の展示会に、当会スタッフとAMCスタッフとの共同活動および市場開拓のトレーニングとして出展した。</li> <li>・ 木材乾燥試験の結果から、ユーカリ、マレーカリンそれぞれに適した乾燥庫内温度を分析した。マレーカリンは55℃で早く乾燥できるが、ユーカリは温度が高すぎるとヒビ割れが発生するため40℃程度が最適と分かった。ボイル工程やスチーム工程との組み合わせも含め、次年度事業での研修に向けてデータの整理を開始し、以降継続している。</li> </ul>
12月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12月3日、ビジネスマネジメント研修を実施した。6名が参加した。</li> </ul>
1月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。1月には、マレーカリンの植林材を購入・運搬し、木材乾燥試験と生産者への分配、AMCによる品質確認を実施した。</li> <li>・ 1月6日、ビジネスマネジメント研修を実施した。6名が参加した。</li> </ul>
2月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材調達先の情報収集と交渉を継続的に実施した。2月には、マレーカリンの植林材を購入・運搬</li> </ul>

し、木材乾燥試験と生産者への分配、AMCによる品質確認を実施した。

- ・ 2月3日、ビジネスマネジメント研修を実施した。6名が参加した。
- ・ 本基金事務局へ相談し、主に専門家派遣費および宿泊費における減額分を、植林木購入として支出するための予算変更を実施した。

#### 4. 最終報告書提出時点での事業の振り返り

##### 達成された成果

###### 【公式木材と未利用資源の活用】

(実施内容のまとめ)

- ・ 当会が調達を仲介し、地域の木工品生産者への植林材の流通を支援した。
- ・ 中規模の新たな木材乾燥機を1機製作した後、ボイラーを付属し、試験運転を実施した。木材乾燥の試験結果の分析を開始した。乾燥処理した木材は、地域の木工品生産者へ提供した。

(成果)

- ・ 地域で7軒の工房が、日本市場向けに、植林材を用いた新商品15アイテムの生産を開始した。うち1軒は他工房より規模が大きく2軒分程度の生産者が従事している。
- ・ ボイラーを付属しない通常版の木材乾燥設備であれば、現地で調達可能な資材を用いて約1,800千チャット（本事業支出換算レートで約13万円）の材料費で製作できるようになり、地域の木工品生産者らが導入を検討できる金額範囲で製作可能となった。乾燥処理した木材が地域の生産者へ提供されることで、品質の安定した木工品を生産できるようになった。

###### 【現地関係者の人材育成とグループ化】

(実施内容のまとめ)

- ・ ミャンマー人講師によるビジネスマネジメント研修を試験的に実施した。
- ・ 木工品生産者、アジアモダンクラフト、当会、三者のミーティングを開催した。さらに共同活動として、植林やデザインコンテスト、展示会出展を実施した。

(成果)

- ・ 次年度事業でビジネスマネジメント研修を本格的に開始する準備が完了した。  
(補記：本事業終了後の3月に講師と振り返りを実施し、3月から月1回、1日の本編研修を、木工品生産者、AMCスタッフ、当会スタッフを対象に開始することとなった。)
- ・ 現地人材の組織化に向けた準備として、三者の交流を促進し、協力関係づくりを開始できた。

##### 残された課題

- ・ 新しい材料の利用が現地人材による地域活動として継続するよう、利用する工房を増やすことで関与者を広げながら、調達のノウハウを現地に残す準備が必要である。
- ・ 木材乾燥設備の利用が現地人材の力で継続するよう、製作と使用のノウハウを文書化し、研修を通じてより多くの人々に周知する必要がある。
- ・ 現地の人々とさらに具体的な体制を見据えた話し合いができるよう、継続的にミーティングを開催し、関係性づくりを進める必要がある。
- ・ 以上の課題に対する活動を、2023年度事業として計画している。